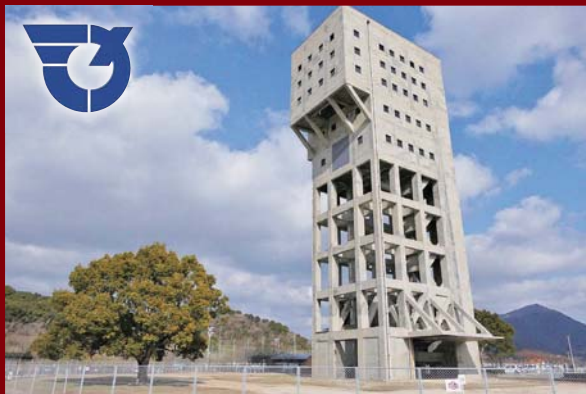


本部訓
使命 規律 團結



KASUYA NANBU FIRE DEPARTMENT

創立五十周年記念誌

粕屋南部消防組合

50TH

SINCE
1973-2023
KASUYA NANBU FIRE DEPARTMENT

粕屋南部消防組合50周年記念誌

P04 あいさつ

P05 歴代組合長・消防長

P07 粕屋南部消防組合 50年のあゆみ

P15 写真で振り返る粕屋南部消防組合

P19 消防庁舎

P23 歴代車両

P27 各種業務

・警防

・救急

・救助

P29 消防本部の仕事

P32 消防女子

P33 災害派遣

P35 救助技術指導会

P37 管内における近年の災害

P39 消防団

P41 粕屋南部地域防災協会

P43 その他

P44 編集後記



50周年に伴い シンボルマークが新しくなりました

Kasuya Nanbu Fire Department



25周年に作成

赤のラインは六町に降りかかる赤い炎を表し、ふたつの青いラインはその赤い炎に放水防ぎよをする南部・中部の両消防署と中央の白色塔は消防本部を表しています。そして、全体の姿は、幾数千年にわたり地面深く根をおろし、如何なる災害にも耐えて生き延び、住民を見守ってきた大木の代表である楠をイメージしています。

今回改新

図案の説明・意図「消防章」雪の結晶の拡大図を基礎とし、これに日章を中心として水管、管そう、それに筒先から放出する水柱を配したものです。

雪の結晶は、水、団結および純潔を意味し、消防職員の性情を表す。水管、管そう、そして水柱は、消防の任務を完遂する機械と水を表している。

『月桂樹(ローリエ)』『栄光』『勝利』『栄誉』古代ギリシャでは、太陽神アポロンの木とされ、月桂樹の小枝で作った冠(月桂冠)を勝者や英雄に授け讃える習慣が花言葉の由来となっている。

ごあいさつ



粕屋南部消防組合
(20代)組合長
箱田 彰

このたび、粕屋南部消防組合は常備消防発足以来50周年という大きな節目を迎えることとなりました。これまで消防行政発展のためご尽力を賜りました地域住民の皆様をはじめ関係各位のご支援とご協力に心から感謝申し上げます。

当消防組合は昭和48年に志免町・宇美町・須恵町の3町をもって発足、昭和61年に粕屋町・篠栗町・久山町が加入して以来、組織体制、施設整備等消防力の充実強化を図り、県内有数の規模・組織力を誇る消防組合に発展してまいりました。

近年は、火災のみならず大規模地震をはじめ気候変動により災害は激甚化、頻発化しています。それに加え新型コロナウイルスによるパンデミックの発生等、消防を取り巻く環境は大きく変化しておりますが、これまでの経験や教訓を基に、今後も消防行政の推進と防災力の向上を図り、安全で安心して暮らすことができる明るいまちづくりを目指し、努力してまいる所存であります。

結びに、これからも、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。記念誌発行に寄せての挨拶とさせていただきます。

50周年を迎えて



粕屋南部消防組合
消防本部
(11代)消防長
安河内 恒

粕屋南部消防組合消防本部は昭和48年に発足してからこのたび50周年を迎えることができました。これもひとえに、組合構成町をはじめ組合議会、消防関係者並びに地域住民皆様のご理解とご協力の賜物と感謝申し上げます。

発足当初の組織体制は、1本部1消防署、職員数26名、それから半世紀を経て、現在では1本部2消防署1出張所、職員数191名と拡充され、職員一丸となって住民の生命・身体・財産を災害から守るため消防救急活動に取り組んでおります。

近年、社会情勢の急速な変化により消防業務の複雑多様化、救急需要の増大、災害の大規模化など住民の消防に寄せる信頼と期待は大きなものとなっております。このような期待に応えるため、さらに関係機関と協力し、消防防災体制の充実を図り、住民皆様の安全安心を最優先に取り組んでまいり所存であります。

結びにあたり、今後とも皆様のご理解とご支援とご指導をお願いいたしまして、発足50周年を迎えての挨拶とさせていただきます。

○ 歴代組合長

(組合長)
現在は粕屋南部消防組合の構成6ヵ町の町長で2年周期の輪番で就任しています。



初代 世利 健助
昭和48年4月1日～
昭和50年5月1日



2代 原田 昇
昭和50年5月1日～
昭和54年4月30日



3代 安川 辰雄
昭和54年5月1日～
昭和57年3月5日



4代 南里 久雄
昭和57年3月6日～
平成 3年5月31日



5代 江崎 淳
平成3年6月1日～
平成6年3月5日



6代 長 憲一
平成6年3月9日～
平成7年11月5日



7代 吉松 昭幸
平成7年11月6日～
平成11年3月31日



8代 佐伯 勝重
平成11年4月1日～
平成12年6月15日



9代 神武 照
平成12年6月15日～
平成14年3月5日



10代 小池 弘輔
平成14年3月6日～
平成17年3月8日



11代 南里 辰己
平成17年3月9日～
平成19年4月30日



12代 三浦 正
平成19年5月1日～
平成21年3月31日



13代 安川 博
平成21年4月1日～
平成23年3月31日



14代 篠崎 久義
平成23年4月1日～
平成23年10月31日



15代 中嶋 裕史
平成23年11月1日～
平成26年3月31日



16代 久芳 菊司
平成26年4月1日～
平成28年3月31日



17代 木原 忠
平成28年4月1日～
平成30年3月31日



18代 世利 良末
平成30年4月1日～
令和2年3月31日



19代 平松 秀一
令和2年4月1日～
令和4年3月31日

○ 歴代消防長



初代 世利 健助
昭和48年4月～
昭和50年3月(2年)



2代 光安 金美
昭和50年4月～
昭和63年3月(13年)



3代 高尾 克磨
昭和63年4月～
平成3年3月(3年)



4代 世利 敏實
平成3年4月～
平成8年3月(5年)



5代 武藤 義則
平成8年4月～
平成12年3月(4年)



6代 川口 建典
平成12年4月～
平成19年3月(7年)



7代 豊福 康廣
平成19年4月～
平成25年3月(6年)



8代 橋本 広幸
平成25年4月～
平成27年3月(2年)








9代 橋本 俊嗣
平成27年4月～
平成29年3月(2年)



10代 百田 修一
平成29年4月～
令和3年3月(4年)

粕屋南部消防組合 50年のあゆみ

年	消防組合の動き	職員数	車両数	社会の動き	
S47	12月 志免町・宇美町・須恵町で構成する消防組合設置について各町議会議決	5	1	5月 大阪・千日デパート火災(118人) (カッコ内は死者数)	
S48	1月 粕屋南部消防組合県知事設置許可 4月 粕屋南部消防組合設置 4月 粕屋南部消防組合消防本部設立 4月 初代世利健助消防長就任(2年) 6月 司令車(日産ブルーバードバン1600)購入 			26	
	7月 救急車2B型 (トヨタハイエースRH18V2000)購入				7月 北部九州に集中豪雨(28人)
	9月 ポンプ車 (日産パトロールFHN60型 森田ポンプA2)購入				11月 関門橋開通
	9月 水槽付消防ポンプ車 (日野ディーゼルKL300 森田ポンプA2)購入				11月 〃 熊本市大洋デパート火災(100人)
	10月 粕屋南部消防署開設、実働開始 (志免町志免1178 仮事務所)				5月 伊豆半島沖地震 M6.8(30人)
S49	5月 消防本部・消防署庁舎竣工、移転(志免町田富170) 査察広報車(三菱ジープT52型)寄贈(ゲラン化学) 	33	6		
S50	3月 救急車2B型(トヨタハイエース2000)寄贈 (日本損害保険協会)を受ける	35	6	3月 山陽新幹線博多開通	
S51	4月 2代目光安金美消防長就任(13年) 12月 ポンプ車(BD-I)寄贈(日本損害保険協会)を受ける	34	7	9月 福岡市天神地下街完成 10月 山形県酒田市大火 焼失面積152,105㎡ 8月 北海道有珠山噴火	
S52	1月 消防公用車(日産グロリア2000)購入 12月 無線サイレン制御装置設置(南部署3カ町)  	45	8		
S53	8月 救助工作車(日野KL505)購入 11月 マイクロバス(日産シビリアン)寄贈 (福岡若杉ライオンズクラブ)を受ける	46	9	6月 宮城県沖地震 M7.4 (28人)	
S54	4月 10月	51	10	3月 大清水トンネル工事現場火災(16人)	
S55	3月 消防本部・消防庁舎増築(688.91㎡)第1期 6月 司令車(トヨタクラウンバン2000)購入 11月 救急車(日産キャラバン2000)寄贈 (県農業共済連)を受ける	54	10	8月 静岡駅前地下街ガス爆発火災(15人) 11月 栃木県川治温泉ホテル火災(45人)	
S56	11月 16m級屈折はしご自動車(日野K-KB324)購入 	61	11	5月 適マーク制度全国一斉実施 7月 福岡市地下鉄開通	

年	消防組合の動き	職員数	車両数	社会の動き		
S57	3月 消防庁長官表彰「竿頭級」表彰	60	12	2月 東京ホテルニュージャパン火災(33人) 2月 羽田沖日航機墜落事故(24人) 7月 長崎に集中豪雨(345人)		
S58	3月 査察車(三菱ミニカアミL)寄贈(粕屋南部農協)を受ける 10月 化学消防ポンプ自動車II型 (三菱K-6FK116)購入 12月 救急車(日産キャラバン2000)寄贈 (山之内製薬)を受ける	13	14	2月 山形県蔵王温泉ホテル火災(11人) 5月 日本海中部地震M7.7(104人)		
S59	11月 粕屋南部地域防災協会創立10周年記念事業 「第1回防災のつどい」 12月 粕屋町・篠栗町・久山町より当消防組合 加入申し入れ	70	15	1月 三井三池有明鉱坑内火災(83人) 11月 東京世田谷区地下ケーブル火災 8月 群馬県御巣鷹山日航機墜落事故(520人) 		
S60	6月 指揮車(三菱デリカE-L037GW2000)購入 8月 消防体制常備化に係る 政令指定都市希望町村調査(消防庁)			2月 静岡県熱川温泉ホテル火災(24人) 		
S61	9月 水槽付き消防ポンプ自動車(三菱P-FK416)購入 4月 消防本部・署義務設置市町村を定める政令告示 6月 南部3町議会、組合規約の一部変更議決 7月 久山町議会 消防組合加入について議決 8月 粕屋町、篠栗町各議会 消防組合加入について議決 9月 組合規約変更県知事許可 消防署の名称変更 南部署署・中部消防署 水槽付消防ポンプ自動車II型(三菱P-FK416F)購入 指揮車(トヨタクラウンバン2000)購入			6月 東京東村山特別養護老人ホーム火災(17人) 		
S62	10月 中部消防署設置・実働開始(粕屋町仲原5) 2月 消防・救急無線中継器基地局設置 指令装置PD2100 設置 			81	10月 福岡ダイエーホークス誕生 	
	4月 7月 査察車(スバルドミンゴ1200)購入 本部配置			90	16	
S63	2月 消防本部庁舎増築(178.26㎡) 機材倉庫完成(99.81㎡) 4月 3代目高尾克磨消防長就任(3年) 7月 化学消防ポンプ自動車II型(三菱P-FK147F)購入 寄贈(日本損害保険協会)を受ける 中部署配置 9月 ポンプ車CD-I型(三菱P-FE335B)購入 中部署配置 11月 林野火災工作車 (トヨタランドクルーザーGX)購入 本部配置 12月 救急車2B型(トヨタL-YH71VB)寄贈 (日本損害保険協会)を受ける 南部署配置					

粕屋南部消防組合 50年のあゆみ

年	消防組合の動き	職員数	車両数	社会の動き
H1	1月 消防公用車(トヨタクラウン2000)購入 本部配置 2月 消防本部庁舎増築(178.2㎡) 2月 本部機材倉庫完成(99.26㎡) 8月 中部消防署建設用地取得(6,701㎡) (粕屋町上大隈55-1)	88	20	
H2	2月 糟屋郡自治会館組合より中部消防署との 庁舎併設について申し入れ 7月 中部消防署・自治会館庁舎併設を組合議会承認 9月 合同庁舎用地拡張のため用地取得(1,769㎡) 12月 合同庁舎建設工事着工	94	20	3月 長崎屋尼崎店火災(15人)
H3	4月 4代目世利敏實消防長就任(5年) 7月 連絡車(トヨタマークII)購入 本部配置 9月 中部消防署新庁舎へ移転・開署 10月 中部消防署・自治会館合同庁舎竣工 救急車2B型(日産キャラバン3000)寄贈 (福岡県共済連)を受ける 中部署配置	93	21	3月 救急救命士法制定 5月 信楽高原鉄道列車事故(42人) 6月 雲仙・普賢岳火砕流災害(40人)
			22	
H4	4月 司令車(トヨタマークIIワゴン2000)購入 本部配置 10月 救助工作車II型(三菱U-FK417FZW)購入 中部署配置 12月 マイクロバス(三菱ローザ・カスタムU-BE459F) 購入 本部配置	97		8月 救急救命士法施行 10月 千葉県袖ヶ浦で製油所爆発(9人)
H5	3月 消防本部・南部消防署庁舎増築(275.66㎡) 6月 査察車(トヨタマークIIワゴン2000)購入 中部署配置 9月 幼年消防クラブ発足	104	23	 1月 釧路沖地震 M7.5(2名) 7月 久山町工場爆発事故 製造工場3,936.10㎡全壊 北海道南西沖地震 M7.8(死者202名)
H6	4月 救急車2B型(日産キャラバン)購入 南部署配置		24	4月 名古屋空港中華航空機事故(264人)
H7	2月 救急車2B型(日産キャラバン)購入 中部署配置	107	24	1月 阪神・淡路大震災 M7.3(6,434人) 3月 東京地下鉄サリン事件(12人) 6月 緊急消防援助隊創設 7月 九州自動車道全線開通
		111		
	3月 中部消防署用地拡張工事完了 4月 査察車(トヨタカローラ)購入 中部署配置 5月 救急救命士国家試験合格(第1号) 防災指導車(トヨタマークII)の寄贈 (防災協会創立20周年記念事業として)を 受ける 本部配置 10月 緊急消防援助隊(救助小隊)消防庁登録			

年	消防組合の動き	職員数	車両数	社会の動き
H8	4月 5代目武藤義則消防長就任(4年) 4月 査察車(トヨタプリンター)購入 本部配置 6月 ガルーダインドネシア航空機炎上事故に 応援出動し、運輸大臣、消防庁長官より 感謝状授与	115	24	2月 北海道古平町豊浜トンネル崩壊事故(20人) 6月 ガルーダ・インドネシア航空機炎上事故 (3人)
H9	1月 高規格救急車(日産パラメディック)購入 南部署配置 4月 3部制勤務体制実施	116		1月 ナホトカ号海難重油流出災害(1人) 7月 鹿児島県出水市土石流災害(21人)
H10	1月 救助工作車III型(日野)購入 南部署配置			2月 粕屋町福岡流通倉庫火災 複合用途対象物、地上7階地下1階 建築面積18,014㎡、延べ面積44,122㎡ うち3階倉庫部分5,000㎡焼損(部分焼)
		119		
H11	5月 粕屋南部消防組合創立25周年 自治体消防発足50周年記念式典 9月 化学車(三菱)寄贈(日本損害保険協会)を受ける 南部署配置 2月 高規格救急車(トヨタ)寄贈 (篠栗町南蔵院)を受ける	120		9月 茨城県東海村ウラン加工施設臨界事故(2名)
H12	4月 組合規約一部変更 (H12年度、休日診療所開設に伴う変更) 2月 指揮調査車(トヨタ)購入 南部署配置			
		122		
H13	3月 救急車 2B 型(日産)寄贈(日本消防協会)を受ける 4月 6代目川口建典消防長就任(7年) 12月 指揮調査車(三菱)購入 中部署配置 1月 タンク車(三菱)購入 南部署配置	124		9月 新宿歌舞伎町雑居ビル火災(死者44名) 地下2階地上5階建て延面積516㎡
H14	4月 消防本部・南部署庁舎増築(93㎡) 3月 40m伸縮水路付はしご車(日野)購入 南部署配置 8月 ミニバイク(ホンダ)5台の寄贈 (かすや南ライオンズクラブ)を受ける 10月 消防公用車(トヨタクラウン)購入 本部配置 11月 水槽付消防ポンプ自動車III型(三菱)購入 中部署配置	128		10月 長崎豪華客船アモルソ号火災
				

粕屋南部消防組合 50年のあゆみ

年	消防組合の動き	職員数	車両数	社会の動き
H15	1月 高規格救急車(トヨタハイメディック4WD)購入 南部署配置 9月 心肺蘇生法訓練人形の寄贈 (若杉ライオンズクラブ)を受ける 支援車(トヨタコースター)購入 本部配置	126		6月 国民保護法制定 9月 2003年十勝沖地震(M8.0) 9月 北海道製油所屋外タンク火災
H16	1月 化学車(三菱)購入 中部署配置 7月 本部・南部署新庁舎建設起工式	131		10月 新潟県中越地震M6.8(死者68名)
H17	6月 本部・南部署新庁舎訓練塔(主塔)完成 			3月 福岡県西方沖地震発生(M7.0) 3月20日10時53分発生 
	10月 指令装置(II型)運用開始 本部・南部署新庁舎実働開始	135 133		4月 JR福知山線列車脱線転覆事故(107名)
H18	3月 本部・南部署新庁舎竣工式 組合規約一部変更(収入役制度廃止) 消防精神記念碑(消防大精神)寄贈 (防災協会創立30周年記念事業として)を受ける 4月 緊急消防援助隊(救急小隊)消防庁登録 10月 全国消防操法大会久山町本部分団出場 (5位入賞)	138		1月 長崎県大村市グループホーム火災(7名) 
H19	1月 高規格救急車(トヨタハイメディック)購入 中部署配置			7月 新潟県中越沖地震M6.8(死者15名)
	4月 7代目豊福康廣消防長就任(6年)	141		
H20	1月 高規格救急車(トヨタハイメディック)購入 南部署配置	144		10月 大阪市個室ビデオ火災(死者15名) 
	6月 消防公用車(トヨタクラウン)売却 12月 高規格救急車(トヨタハイメディック)購入 (空港環境整備協会助成)中部署配置			
H21	4月 	147		7月 中国・九州北部豪雨(死者35名)

年	消防組合の動き	職員数	車両数	社会の動き
H22	1月 高規格救急車(日産パラメディック)購入 (空港環境整備協会助成)南部署配置 3月 本部連絡車(日産セレナ)購入 4月	147		
H23	2月 救助工作車II型(日野)更新 中部署配置 			3月 東日本大震災 M9.0(19,533名) 3月 九州新幹線全線開通 
	3月 緊急消防援助隊派遣(宮城県) 後方支援小隊2名・救助小隊4名・救急小隊3名 14日~21日(活動18日~20日)山元町	147		
	4月 			
	10月 マスコットキャラクター「かすにゃん」誕生 東日本大震災に応援動し、 総務大臣・全国消防長会より感謝状授与 			 
H24	1月 南部査察車(トヨタノア)更新 3月 防災指導車(トヨタアイシス)の寄贈 (粕屋南部地域防災協会)を受ける 本部配置 4月 緊急消防援助隊(後方支援小隊)消防庁登録	155		5月 広島県福山市ホテル火災(7名) 6月 久山町大規模倉庫火災(倉庫6,843㎡全焼) 7月 九州北部豪雨災害(30名) 12月 中央自動車道笹子トンネル内崩落事故(9名)
H25	2月 予防査察車(ホンダNボックス)更新 4月 8代目橋本広幸消防長就任(2年) 10月 化学車(日野)購入 南部署配置	164		10月 福岡市整形外科医院火災(10名)

粕屋南部消防組合 50年のあゆみ

年	消防組合の動き	職員数	車両数	社会の動き
H26	2月 高規格救急車(トヨタハイメディック)購入 中部署配置 4月 中部消防署 西出張所用地購入 10月 高規格救急車(トヨタハイメディック)購入 (空港振興・環境整備支援機構助成)南部署配置	169		8月 広島土砂災害(77名) 9月 木曾の御嶽山標高3,067m噴火(58名)
H27	4月 9代目橋本俊嗣消防長就任(2年) 11月 中部消防署 西出張所完成			5月 川崎市簡易宿泊所火災(10名)
H28	1月 中部消防署 西出張所実働開始 救急隊配備	165		1月 長野県大型観光バス横転事故(15名)
				
	3月 救助工作車Ⅲ型(日野)購入 南部署配置 緊急消防援助隊派遣(熊本県) 4月 救助小隊5名・救急小隊3名・後方支援隊2名	169		4月 平成28年熊本大地震M7.3(273名) 12月 新潟県糸魚川大規模火災
H29	1月 高規格救急車(トヨタハイメディック)購入 中部署配置 タンク車(日野)購入 南部署配置 指揮調査車(トヨタハイメディック)購入 中部署配置 4月 10代目百田修一消防長就任(3年) 11月 福岡都市圏消防共同指令センター運用開始			5月 嘉麻市産業廃棄物処理場火災 7月 九州北部豪雨災害(42人) 降水24時間雨量545.5mm
H30	1月 高規格救急自動車タイラーⅡ号 (トヨタハイメディック)の寄贈 (志免町在住者)を受ける 南部署配置	175		4月 篠栗町住宅密集地火災 全焼12棟、半焼1棟、部分焼2棟計17棟 7月 平成30年豪雨(広島県) 京都府京都アメーション火災(36名) 10月 沖縄県首里城正殿火災
				
	2月 タンク車(日野)購入 中部署西出張所配置 7月 緊急消防援助隊派遣(広島県)6日～ 消火小隊5名	176		
H31	4月			

年	消防組合の動き	職員数	車両数	社会の動き
R2	7月 緊急消防援助隊派遣(熊本県)4日～14日 7日間 救助小隊・救急小隊・後方支援小隊 計24名	180		3月 新型コロナウイルスの感染が世界に拡大 7月 令和2年7月豪雨(84名)
R3	4月 11代目安河内恒消防長就任(3年) 4月 緊急消防援助隊(消火小隊)登録 11月 支援車(日野)購入 南部署配置	179		7月 東京オリンピック開幕
		187		
R4	1月 高規格救急車(トヨタハイメディック)購入 南部署配置			2月 新潟製菓工場火災(6名)
R5	4月 消防長消防正監に昇格 5月 緊急連絡車(トヨタハイラックス)購入	192		
				
	6月 化学車(日野)購入 中部署配置 10月 粕屋南部消防組合創立50周年			



写真で振り返る
粕屋南部消防組合

Kasuya Nanbu Fire Department



1973-1998



【昭和49年】消防庁舎新築記念



【昭和52年】勤労感謝の日
幼稚園児から花束贈呈



【昭和53年】南部署警備室



【昭和54年】水防訓練
志免、宇美、須恵合同



【昭和55年】志免町
署・団合同消防演習



【昭和54年】須恵町 山林火災消防演習



【昭和55年】南部消防署
当時の庁舎の様子



【昭和57年】南部消防署
消防署見学



【昭和57年】宇美町飛岳団地
火災予防運動週間 演習



【昭和58年】住民に対する救急法講習



【昭和59年】第1回防災のつどい
志免中央小学校グラウンド



【昭和63年】粕屋町周辺
第3回防火駅伝



【平成元年】消防演習



【平成2年】南部消防署 とびうめ国体聖火リレー



【平成2年】第6回防災のつどい
久山中学校グラウンド



【平成元年】須恵町演習
救助隊員たち



【平成2年】防火診断 独居老人宅訪問



【平成7年】阪神・淡路大震災に派遣



【平成3年】第1回屋内消火栓・
消火器操法大会



【平成6年】久山町
危険物施設消防演習



【平成8年】消防団の救急法講習



【平成8年】青洲会病院合同
病院火災消防演習

写真で振り返る

粕屋南部消防組合

Kasuya Nanbu Fire Department

1999-2023



【平成12年】南部消防署
中学生の職場体験



【平成22年】中部消防署
福岡市消防航空隊合同訓練



【平成23年】かすにゃん誕生



【平成11年】古賀市
糟屋地区合同防災訓練



【平成13年】立入検査
タンクローリー路上検査



【平成14年】40m級伸縮式水路付
はしご車運用開始



【平成27年】西出張所
西出張所開所



【平成26年】少年消防クラブ
夏季研修



【平成16年】本部・南部消防署新庁舎



【平成29年】幼年消防クラブへ
鼓笛隊セット交付



【平成16年】高杉製薬
危険物施設消防演習



【平成31年】緊急消防援助隊
後方支援合同訓練



【令和2年】中部消防署
塵芥車構造研修会



【平成18年】創立30周年記念
消防精神の碑
粕屋南部地域防災協会より受贈



【平成21年】高野甲子男氏来庁



【令和3年】南部消防署
支援車配置

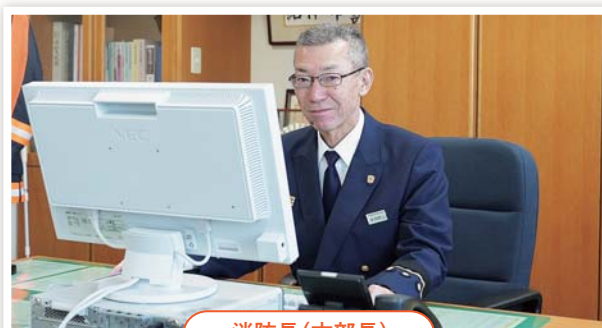


【令和4年】篠栗町・須恵町
福岡県総合防災訓練

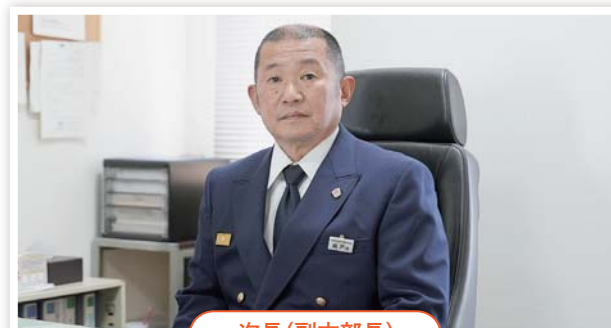
○ 消防本部



○ 消防本部



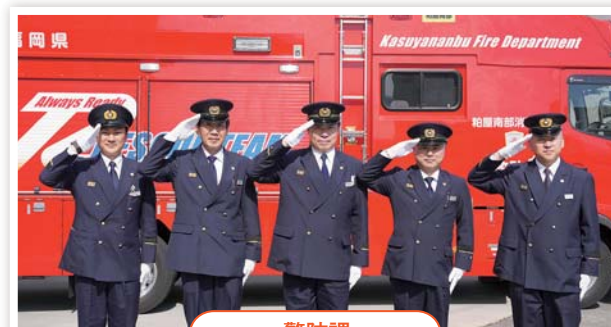
消防長(本部長)



次長(副本部長)



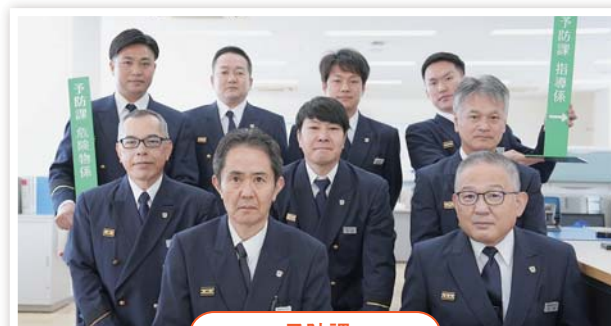
総務課



予防課



救急課



予防課

○ 南部消防署



管轄区域	志免町 宇美町 須恵町
敷地面積	7,106.45㎡
庁舎	鉄筋コンクリート造 地上4階建て 建築面積 1,713㎡ 延べ面積 4,562㎡
訓練塔	主塔 RC造7階 延476㎡ 副塔 RC造2階 延158㎡ 補助塔 RC造3階 延182㎡
その他	防災センター併設 329㎡ 駐輪場 52㎡ 平成18年3月竣工



南部消防署長



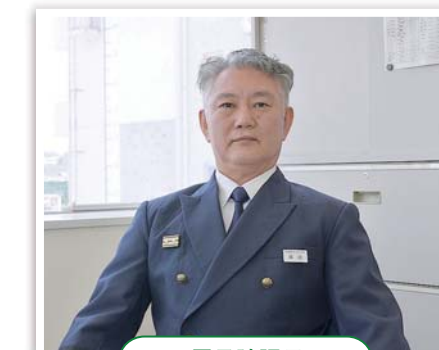
警備第1課



警備第2課



警備第3課



署予防課長



○ 中部消防署



管轄区域	粕屋町 鎌栗町 久山町
敷地面積	6,160.71㎡(自治会館分除く)
庁舎	鉄筋コンクリート造 地上4階建て 建築面積 1,015㎡ 延べ面積 3,259㎡
訓練塔	主塔 RC造5階 延201㎡
その他	粕屋郡自治会館併設 平成3年10月竣工



○ 中部消防署 西出張所



管轄区域	粕屋町 志免町
敷地面積	1,682.65㎡
庁舎	鉄筋コンクリート造 地上2階建て 建築面積 324.00㎡ 延べ面積 464.64㎡
その他	平成28年1月竣工



中部消防署長



警備第1課



警備第2課



警備第3課



署予防課長



警備第1課



警備第2課



警備第3課



50th初任教育学生

新たに採用された消防職員に対し、消防署等に配属される前、約6ヶ月間の全寮制による教育を行います。教育は、防火、防災に関する基礎的な知識や技術の修得はもちろん、強靱な気力や体力づくり、また、社会人としての人格形成を目指して行います。

歴代車両



1973年 本部発足(救急車・ポンプ車・タンク車)



1976年 ポンプ車



1974年 査察広報車



1978年 救助工作車I型



1980年 司令車



1983年 化学消防ポンプ自動車



1981年 16m級屈折はしご車



1985年 指揮車



1986年 【中部】水槽付消防ポンプ自動車



1986年 【中部】救急自動車柏屋中部救急センターから譲渡



1988年 【中部】消防ポンプ自動車



1988年 【南部】救急車



1992年 【中部】救助工作車II型



1988年 【南部】林野工作車



1997年 【南部】高規格救急車



1995年 【中部】救急車

歴代車両



1998年 【南部】救助工作車Ⅲ型



2000年 【中部】指揮調査車



2013年 【南部】化学消防ポンプ自動車

2003年 【中部】化学消防ポンプ自動車



1999年 【中部】高規格救急車



(右側) 2001年 【南部】水槽付消防ポンプ自動車

(左側) 2002年 【中部】水槽付消防ポンプ自動車



2011年 【中部】救助工作車Ⅱ型



2016年 【南部】救助工作車Ⅲ型



2017年 水槽付消防ポンプ自動車



2002年 【南部】40m級水路管付はしご自動車



2003年 【南部】支援車



2018年 【西出張所】水槽付消防ポンプ自動車



2021年 【中部】水槽付消防ポンプ自動車



2003年～2022年 高規格救急車を毎年更新



2021年 【南部】支援車



2023年 【中部】中部化学消防ポンプ自動車



2023年 【本部】緊急連絡車

各種業務

当消防本部は、1本部2署1出張所、職員数191名体制で6町(宇美町、志免町、須恵町、粕屋町、篠栗町、久山町)を管轄し、消防業務を遂行しています。各消防署、出張所では3グループが1日ごとに交代し24時間体制で火災・救急・救助などの災害に対応するほか、警備、予防、救急業務などの事務処理や検査なども行っています。



消防本部・南部消防署



中部消防署



西出張所



交通事故による二次災害防止

警 防 業 務

「消防は火災を予防し、警戒および鎮圧し、国民の生命、身体および財産を火災から保護するとともに、火災または地震等の災害による被害を軽減するほか、災害等による傷病者の搬送を適切に行い、もつて安寧秩序を保持し、社会公共の福祉の増進に資すること」(消防法第1条)を目的とし、各種災害に対応しています。



火災防ぎよ活動



NBC災害対応

救 急 業 務

救急は病気や事故で怪我をした人の元にいち早く駆け付け、症状の把握、改善、悪化を防ぐための応急処置を行い、適切な病院に迅速に搬送します。その中でも救急救命士は医師からの具体的な指示を受け、家族からの同意を得た上で、医療器具を用いた気道確保や輸液、薬剤投与などの高度な救命処置を行います。



接触・観察



救急車内収容



救急救命士による特定行為

救 助 業 務

救助活動では、交通事故、水難事故、山岳事故などの様々な災害により生命又は身体に危険が及んでいる人に対して、救出活動を行います。1分1秒でも早く救出するために、日々知識技術の修練、連携強化に努め、様々な訓練を行っています。



低所からの吊り上げ



水難救助



難所ヶ滝の厳冬期山岳救助

総務課



永年勤続表彰

総務課は、庶務人事係と企画財政係に分かれ、消防本部の組織運営、組合議会、予算の編成等を行っています。その他にも職員の意見発表会の開催、表彰関係やハラスメントに関する研修など職員が働きやすい職場環境作りを目指しています。



消防職員意見発表会



ハラスメント研修

警防課



消防活動訓練風景

警防課では、消防力の整備として消防車両の設計や装備の充実を図るとともに、訓練や研修の企画運営、福岡都市圏消防共同指令センターをはじめとする他機関との連絡調整を行います。また、大規模災害や緊急消防援助隊では後方支援小隊として全国に出動することもあります。



防火水槽の中間検査



車両製作の中間検査

予防課



危険物積載車両路上検査

予防課は、危険物に関する規制や検査をする危険物係と建築物の検査や指導を行う指導係に分かれています。また、外郭団体の地域防災協会の事務局の仕事や少年・幼年消防クラブ等の育成指導も行っています。



ガソリンスタンド立入検査



消防設備設置検査

救急課



救急救命士処置拡大研修

救急課では、救急活動時等において、救急隊が遵守すべき事項及び手順について定めたプロトコルの周知徹底、救急資材管理、救急活動の事後検証、病院や保健所等の医療機関との連絡調整、訓練や研修の企画運営などを行っています。



救急隊員研修



救急隊員研修

防災センター



防災センター職員

防災センターは、見て!聞いて!触って!そして体験する防災学習の体験ゾーンです。地震、風水害、火災の煙の体験や通報、消火の訓練を行うことができます。

当施設では、住民一人ひとりの防災に対する意識を高め、災害や事故などに対する自主防災力の向上を図るための、住民防災学習の場であり、住民同士、住民と消防職員の交流の場でもあります。



地震体験



水害体験

消防署所



消防署見学

その他消防署所では、避難訓練や救急法講習、消防署の見学や建物の防火管理体制を確認する立入検査、各種届出事務などを行っています。また、他本部との合同訓練なども行い多様な災害に対しての連携強化に努めています。



福岡空港での合同訓練



救急法講習



#消防女子

FEMALE FIREFIGHTERS



「消防本部における女性消防吏員の更なる活躍に向けた取組の推進について(平成27年7月29日付け消防消第149号消防庁次長通知)」において、全国的に女性消防吏員の比率を令和8年度までに5%まで引き上げることを目標としています。

当消防組合は、6名/192名(3.1%)となっています。目標の5%には達していませんが、様々な部署で女性が活躍しています。



消防本部
救急課



中部署
救急隊



中部署
指揮隊



PR
ポスター



中部署
救急隊



南部署
救急隊



南部署
救急隊

災害派遣



【平成7年2月】阪神・淡路大震災に派遣

阪神・淡路大震災の教訓を基に創設された「緊急消防援助隊」。これにより全国的な広域応援体制を確立。近年、毎年のように発生する豪雨災害をはじめ、地震等の大規模災害において応援活動を実施。当本部では、5隊18名を登録しており、被災地での消火活動、捜索救助活動、後方支援活動及び救急活動に従事します。

【緊急消防援助隊登録のあゆみ】

- 平成 7年 救助小隊登録 1隊5名
- 平成18年 救急小隊登録 1隊3名
- 平成24年 後方支援小隊登録 1隊2名
- 令和 3年 消火小隊登録 1隊4名
- 令和 4年 救急小隊登録 1隊3名



【平成8年6月】福岡空港ガルーダインドネシア 航空機離陸事故（応援出動）



【平成23年3月】東日本大震災に派遣（緊急消防援助隊）



【平成24年7月】八女豪雨災害に派遣（県相互応援）



【平成28年4月】熊本地震に派遣（緊急消防援助隊）



【平成29年6月】飯塚産廃火災に派遣（県相互応援）



【平成29年7月】朝倉豪雨災害に派遣（県相互応援）



【平成30年7月】広島豪雨災害に派遣（緊急消防援助隊）



【令和2年7月】熊本豪雨災害に派遣（緊急消防援助隊）

一般財団法人全国消防協会では、昭和47年から毎年、全国消防救助技術大会(以下「全国大会」という。)を開催しています。この全国大会は、救助技術の高度化に必要な基本的要素を練磨することを通じて、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、全国の消防救助隊員が一堂に会し、競い、学ぶことを通じて、他の模範となる消防救助隊員を育成し、全国住民の消防に寄せる期待に力強く応えることを目的としています。

また、全国大会を通じて広く全国の住民に、消防の技術の高さ、力強さ、優しさをアピールするとともに、常に住民の目線に立って大会内容を研究し、全国大会を未来志向の大会とすることを目標としています。



はしご登はん

自己確保の命綱を結索した後、垂直に固定されたはしごを15m登はんします。災害建物への進入など、消防活動には欠かせない訓練です。



ロープ応用登はん

登はん者と補助者が2人で協力し、器材を使わずに塔上から垂らされたロープを15m登はんする訓練です。足をロープに固定させながら登るので、迅速に登はんすることができます。



ロープブリッジ救出

4人1組(要救助者を含む)で、2人が水平に展張された渡過ロープに(20m)により対面する塔上へ進入し、要救助者を救出し、ロープに吊り下げてけん引して救出した後、脱出します。建物や河川の中洲などに取り残された要救助者を隣の建物や対岸などから進入して救出することを想定した訓練です。



引揚救助

5人1組(要救助者を含む)で、2人が空気呼吸器を着装して塔上から塔下へ降下し、検索後、要救助者を塔上へ救出した後、ロープ登はんにより脱出します。地下やマンホール等での災害を想定した訓練で、有毒ガスの発生や酸欠等の状況が想定されるので、空気呼吸器を着装します。



ロープブリッジ渡過

水平に張られた渡過ロープ20m(往復40メートル)を往路はセーラー渡過、復路はモンキー渡過します。ロープ渡過の基本的な訓練です。



ほふく救出

3人(要救助者を含む)1組で、1人が空気呼吸器を着装して長さ8mの煙道内を検索し、要救助者を屋外に救出した後、2人で安全地点まで搬送します。



障害突破

5人1組(補助者を含む)で、4人が緊密な連携の下、一致協力して「乗り越える」「登る」「渡る」「降りる」「濃煙を通過する」の基本動作により5つの障害を突破します。災害現場の様々な障害を想定し、いかなる状況下においても、体力的・精神的に屈することなく対応することを目指した訓練です。

※現在は「高所人命救助」、「斜めブリッジ救出」、及び「ロープ登はん」は競技種目からなくなりました。

◎ 全国大会入賞チーム

 昭和60年 広島県広島市	 昭和61年 兵庫県神戸市	 昭和61年 兵庫県神戸市	 平成3年 大阪府東大阪市	 平成5年 福岡県福岡市
引揚救助	高所人命救助	はしご登はん	障害突破	高所人命救助
元島 光記 篠原 光雄 世利 敏夫 藤 和浩 平田 政則	世利 政幸 松永 憲樹 堀 光博 吉松 浩二	吉松 浩二	城戸 龍男 松永 康一 佐藤 晃司 安河内正樹 八木 和郎	安河内 恒 松永 憲樹 井上 一己 平田 政則
 平成5年 福岡県福岡市	 平成8年 北海道札幌市	 平成11年 神奈川県横浜市	 平成14年 愛知県名古屋市	 平成17年 埼玉県さいたま市
ほふく救出	ロープブリッジ救出	ほふく救出	障害突破	ロープブリッジ救出
平山 憲一 手島 昇規 佐伯 賢規	稲永 晃 脇坂 憲尚 柴崎 健信 徳田 克則	古賀 勝明 塘地 俊之 安川 智彦	今泉 律吾 上別府圭太 藤 貴晴 岡 茂伸 松田 寿人	橋爪 哲平 藤瀬 和 稲永浩一郎 徳田 克則
 平成20年 福岡県北九州市	 平成20年 福岡県北九州市	 平成21年 神奈川県横浜市	 平成21年 神奈川県横浜市	 平成22年 京都府京都市
ロープブリッジ救出	ほふく救出	引揚救助	障害突破	引揚救助
木下信一郎 加治 浩一 稲永浩一郎 八尋 健作	太田 雄誌 安川 智彦 有隅 美晴	古賀 勝明 印藤 崇 大村 修貴 城戸 秀太 野田 秀樹	橋爪 哲平 村瀬 広樹 堤 雅浩 草野 祐二 新川 恭平	安川 智彦 大村 修貴 城戸 秀太 野田 秀樹 世利 哲治
 平成22年 京都府京都市	 平成31年 岡山県岡山市	 平成31年 岡山県岡山市	 令和4年 東京都立川市	 令和5年 北海道札幌市
ロープブリッジ救出	ロープブリッジ救出	ほふく救出	ロープブリッジ救出	障害突破
加治 浩一 井島 守浩 矢羽田頼幹 上邑 司	青木 貴誠 百濟 拓哉 桐明 知弘 古屋 聖人	稲永 恭兵 内野 武蔵 松本 武士	諸石 浩明 中村 海斗 宮本 真次 高山 輝	古賀 風太 嶋 孝盛 櫻木 克海 一木 瑛吾 山内崇佑志

【平成15年7月】福岡集中豪雨

平成15年7月19日午前1時過ぎから6時間にかけて、九州北部を襲った集中豪雨は、福岡市、太宰府市、大野城市、宇美川周辺など大きな被害をもたらしました。



【平成21年7月】中国・九州北部豪雨(篠栗町)

平成21年7月19日から26日にかけて、西日本で梅雨前線の活動が活発になり、九州北部の多いところで総雨量が700ミリを超え、7月の月間降水量平年値の2倍近くに達しました。この大雨により、広島県、山口県、福岡県、佐賀県、長崎県において30名の方がなくなり、また、山口県、福岡県を中心に住家の浸水が10,000棟を超えるなど各地で浸水害や土砂災害が発生しました。

当本部でも篠栗町の山手地区で土砂災害が発生し、消防署、消防団、警察、自衛隊など延べ1,576名が11日間かけ捜索活動を行い全壊した木造2階建て住宅から2名の遺体を救出しました。



【平成24年6月】久山町倉庫火災

平成24年6月1日久山町にて鉄骨造平屋建て倉庫6,843㎡を全焼する火災が発生しました。福岡市消防局、粕屋北部消防本部の応援もあり、消防署、消防団併せて消防車両60台、554名が出動しました。発災から再燃防止処理まで4日間かかりましたが、全焼1棟、類焼9棟、焼損車両21台の被害を出したものの人的被害はゼロでした。



【平成30年4月】篠栗町大火

平成30年4月13日乾燥注意報が出されているなか、折からの強風にあおられて住宅・倉庫・納屋など17棟、焼損床面積総計1,464㎡を焼失する大火災が発生しました。6世帯15名の方が被害にあわれましたが幸いにも負傷者はゼロでした。この火災では、消防署、消防団、都市圏応援、併せて消防車32台、182名が出動しました。



消防団

自分たちの町は 自分たちで守る

消防団は、他に仕事をしながら災害時には消防活動などを行うボランティアで地域防災の要です。消火活動だけでなく、地震や風水害などの災害でも活動したり、日ごろから訓練や巡回広報、消防設備の整備の地域活動を通して、地域の安全・安心を守っています。

粕屋町



須恵町

志免町



篠栗町



宇美町



久山町



消防ポンプ操法

地域防災の要である消防団は、時には消防署よりも早く現場に到着し、消火活動を行います。安全・確実・迅速な活動を行うために消防ポンプ操法を通して精神・身体・技術の習得を行い、多くの人の前で披露することにより地域住民の信頼と誇りを得ています。

FIRE BRIGADE

VOLUNTEER FIRE CORPS

地域防災の一翼を担う 企業連合

粕屋南部地域防災協会は昭和50年6月、粕屋南部(志免、宇美、須恵)の石油販売を業とする事業所を主体として、危険物災害の発生防止と安全推進の為、設立されました。

昭和62年4月には、中部地区(粕屋、篠栗、久山)の加入に伴い組織・機構の強化が図られ団・署及び地域防災協会の三者が一体となった防災事業を推進し、地域の振興発展の為に活動しています。



ささぐり
少年消防クラブも
お手伝い



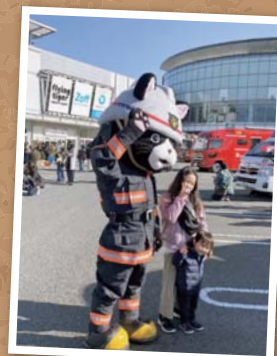
粕屋南部地域防災協会主催
「防災・防犯フェア」の様子



かすにゃん



粕屋南部消防本部の
マスコットキャラクターの
「かすにゃん」です。
木に登り降りられなくなったのを
消防士さんに助けてもらい
消防士になりました！



互助会
クラブ
活動紹介



野球部



剣道部

走ろう会



釣りクラブ



ゴルフ部



編集後記

Message

粕屋南部消防組合消防本部創立50周年にあたり、記念誌を刊行させていただきました。

昭和48年(1973年)7月30日夜から翌31日午前2時にかけて、寒冷前線の南下に伴い、福岡市の南東部に位置する宝満・三郡山系を中心に集中豪雨をもたらし、短時間の集中豪雨により、山腹崩壊を起こし、土石流となって各溪流を流下し、多々良川水系、御笠川水系等では各所に堤防の破堤、橋梁や道路の流出による交通の寸断絶絶をおこし、管内にも未曾有の被害を出しました。

そのような年の昭和48年4月にわが粕屋南部消防本部は、志免町・宇美町・須恵町の3町をもって創設され、粕屋南部消防本部、南部消防署と1本部1署にて昭和48年10月に実働開始しました。

当初消防車両4台、消防吏員26人で実働開始された消防本部も、昭和61年10月には、粕屋町・篠栗町・久山町が消防組合に加入し、中部消防署が設置され1本部2署体制となり、その後平成28年1月には中部消防署西出張所が開所しました。現在では、消防車両21台消防吏員191名にて、地域住民の安全安心のため災害対応しております。

50年前の粕屋南部消防本部管内は、田畑や山が見渡す限り存在し自然あふれる環境でしたが、福岡市近郊のベッドタウンとして人口が急増し、開発が進み住宅などの建設が進んできました。また、九州縦貫道や国道などの交通網が整備され物流施設の大規模建築物が進出してあります。自然と街が調和した自然あふれる環境となっていますが、いったん豪雨などの災害が発生しますと自然は猛威を振り大規模な災害をもたらす、整備された交通網にあつては重大な交通事故も発生いたします。人口増加に伴い、救急件数は増加、年間の救急件数は、昨年9,835件、今年は、10,000件をペースで出動件数が増加しています。

本部訓「使命・規律・団結」、これは本部設立当初から本部に掲げられた教えであります。消防の先輩方がこれを胸に、日頃よりあるべき姿を伝授されてきました。いわゆる“粕南魂”として、現場活動においても、救助大会や、野球、剣道、走ろう会などの各種クラブ活動においても仲間と支えあい、結果を出してきました。救助大会にあっては、先輩方の技術を伝承し毎年のように福岡県大会を勝ち抜き九州大会へ出場しております。

粕屋南部消防本部50周年記念事業委員一同、仕事の合間をぬって記念誌の制作をやってきましたので十分に伝えられないところもありますが、これからも皆様のご理解ご協力のもと、これまでの50年を見つめ直し、技術、魂を伝承し地域住民の負託にこたえていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

粕屋南部創立50周年記念事業委員

委員長	城戸 龍男
副委員長	安河内 正樹
委員	井上 一己 日浦 宏治
	内田 光昭 因 亮典
	平井 直樹 佐藤 敦子
	吉村 幹 園田 竜也

